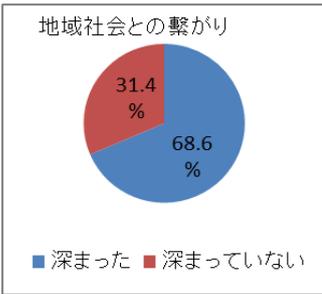


**31年間で1040万人が取り組んだJAグループの食農教育教材“バケツ稲づくりセット”
7割のJAで、小学校や地域社会とのつながりが深まると実感
JA等向け「JAグループバケツ稲づくり事業」活用状況アンケートより**

JAグループのバケツ稲づくり事業は、バケツにミニ田んぼを作り、次世代を担う子供たちを中心にお米やごはん稲作文化について理解を求め、農業振興の応援団になっていただくという取り組みです。あわせて、学校などでの食農教育に役立てていただける取り組みでもあります。

平成元年から事業を開始して31年の歴史を刻み前回(令和元年)の配付で、バケツ稲づくりを経験した子供たちは、延べ1,040万人を超えました。全国農業協同組合中央会(JA全中)は令和元年、この効果を検証するため、JA・JA都道府県中央会担当者に対してアンケートを実施しました。(回答数=231JA・中央会、調査方法=メール、期間=令和元年8月20日~9月30日)

○バケツ稲づくりをきっかけに小学校や地域社会と繋がりが深まる

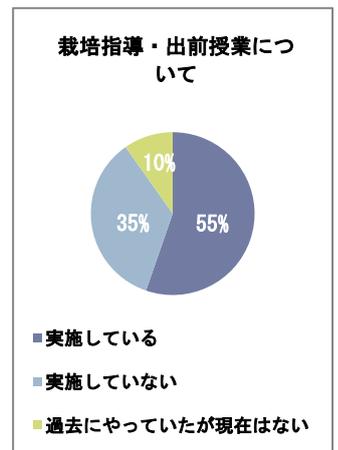


バケツ稲づくりを実施したJAのうち「バケツ稲づくりの案内をきっかけに、小学校や地域社会との繋がりが深まった」との回答が約7割(68.6%)に上りました。どのようなつながりが出来たか(自由回答)との問いには、「農業への関心を持ってもらえた」「将来は農家になりたいという声もあり担い手育成につながった」「JAの農業まつりに子供達の来場が増えた」「JAをより身近に感じてもらうことができた」「感謝祭など学校行事に招待される」「給食での地場産米の供給につながった」「生産資材を購入してもらった」「お礼の手紙をもらった」などの声が寄せられました。

○JA職員・青壮年部・女性部員が栽培指導(出前授業)

JAでは、初めて取り組む教育機関から、多くの栽培指導(出前授業)の要望があり、地域社会との繋がりを強めて「農業振興の応援団づくり」のために出向き対応しています。アンケートでは、バケツ稲づくりを実施したJAのうち、栽培指導を行うJAは55%にのぼり、その68%が小学校から依頼されて実施しているとのこと。さらに、栽培指導はJA職員70%、農家組合員15%、青壮年部・女性部員が15%となっています。

その効果として「学校に評判がよくJAのイメージも上がった」「お礼の手紙を貰った」「子供達に会ったとき声を掛けられる」「農業まつりに子供達の来場が増えた」「JAをより身近に感じて貰うことができた」「子供達に稲づくりを通してJAの活動を知って貰えた」などの声がありました(栽培指導の効果についての自由回答より)。



栽培指導(出前授業)の様子(写真)



○バケツ稲づくり以外にも J A では多彩な食農教育事業を展開、地域に寄り添う

アンケートでは、バケツ稲づくり以外で J A が実施している児童向けの食農教育事業についても設問を設けています（自由回答）。各 J A からは、バケツ稲づくりのほかに、J A 施設見学の受け入れ、食育教材(本・ランチオンマト)の配付、野菜苗の提供、各種野菜・果物の栽培・収穫体験、農作業ツアーの招待、学校給食・こども食堂への食材提供、各種教室の開催、学校農園事業として助成措置、など多岐にわたる食農教育・地域社会貢献事業を展開していて、地域社会にしっかり寄り添う J A の姿がうかがえます。

○バケツ稲づくりが「農業振興の応援団づくり」のための教材として役立つと 99%が回答

バケツ稲づくり事業が、次世代の子どもたちに農業やお米に対する知識や興味を深め、「農業振興の応援団づくり」のための食農教育に適した教材との認識が 99.2%と大半を占め、事業の継続を望む声が上がりました。

バケツ稲づくり事業とは…

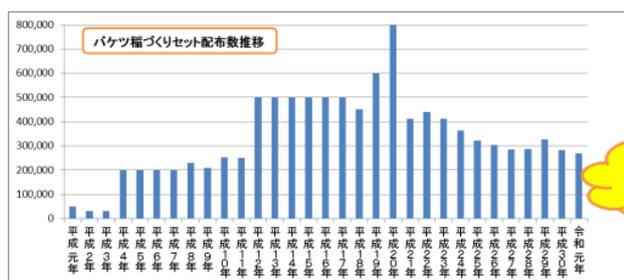
次代を担う子どもたちに、日本の稲作や農業に触れ、もっと身近に考えてもらいたい、そんな思いから「バケツ稲づくりセット」の配布を平成元年より実施しています。バケツ稲とは、「バケツで育てる稲」のことです。バケツと土を用意すれば庭やベランダなど場所を選ばず、手軽に稲作を体験することができます。種もみと肥料、栽培マニュアル、お名前シールがセットになった「バケツ稲づくりセット」は、家庭での食育体験のツールとして、そして、学校教育の現場では、稲作を学ぶ教材として幅広く活用されています。

【参考・第 31 回配布結果より抜粋】

○配付先の 7 割は小学校(特別支援学校を含む)の授業で活用

小学校への配付は、全体の 7 割と大半を占め、全国の国公私立小学校 3,261 校(参加率 16.5%=全国の国公私立小学校設置数 19,741 校中)で実施されていて、活用授業は判明分で「総合的な学習の時間」(861 校)、「社会科」(312 校)、「理科」(34 校)、「生活科」(32 校)、「家庭科」(12 校)、その他、環境学習、国語、算数、道徳など多岐にわたっています。

※前回(2019年3月～6月)申し込み数より



令和元年度の配付先区分

配付先区分	件数	構成比
小学校(特別支援学校含む)	3,261	70.3%
認定こども園・保育園・幼稚園	853	18.4%
中学校	40	0.9%
高校	12	0.3%
福祉施設(高齢者・児童)	23	0.5%
公共施設	16	0.3%
JA利用 JAイベント	236	5.1%
その他	196	4.2%
合計	4,637	

延べセット数
10,408,917セット

<本件に関する報道関係者様からのお問い合わせ先>

J A 全中 広報部 広報課 担当：林

TEL：03-6665-6011 e-mail：t-kouho.s@zenchu-ja.or.jp

*アンケート集計結果本体が必要な方はこちらまでご連絡ください

<一般のお客様からのお問い合わせ先>

バケツ稲づくり事務局 TEL：03-6281-5822 (午前10時～午後5時 ※土・日曜日・祝日は除く)

詳しい内容は、下記のQRコード

からアクセスできます



耕そう、大地と地域の未来。 JAグループ

【参考資料】バケツ稲づくり事業について／学校・団体・子どもたちからの意見

第31回バケツ稲づくりのセットの申込みから、学校・団体・子どもたちからも事業についての意見が届いていますので、参考までに添付いたします。ぜひ一読下さい。

〇個人申し込みは、口コミ・Instagram・Facebookなどで情報広がる

バケツ稲づくりでは、個人の申し込みにも無償・送料有料で提供していて、中でも初めて経験する方の割合が6割以上に上ります。要因はJAグループバケツ稲づくり事業が31年の歴史を経過し、母親になった方が幼少時代に経験したバケツ稲づくりを子供に体験させたい、祖父母が孫と一緒に経験したい、食(食育)への関心が高まり子供に体験させたい、小学校で体験している子供か家庭で自慢げに話しているのを聞いた弟妹が経験したがっている、主婦同士の口コミからInstagram・Facebookの投稿を見て興味を持ったなど、情報の拡散から取り組みの動機付けがされた模様です。



稲わら活用の個人の投稿画像

今年度(令和元年)のバケツ稲づくりセットの配布は、好評に推移し在庫僅少により既に終了しており、次回は、令和2年1月中旬より申し込み受け付けを開始します。

教育機関(先生)の声

- ・大変素晴らしい企画で本当に助かっています。本校では田んぼの稲との比較も行い、稲作の奥深さも学んでいます。藁も活用しています。(東京都稲城市 小学校 経験:6回以上)
- ・お米作りに挑戦(やってみようバケツ稲)のサイトのヒントやアドバイスはとても見やすく助かります。稲わらはいつもしめ飾りを作っていましたが、今年はリースとミニホウキを作成しました。(大分県臼杵市 小学校 経験:5回目)
- ・毎年お世話になっております。毎回、子どもたちも楽しみにしています。粃まき、土づくり、田植えなどたくさん活動を歓声をあげながら、楽しみながら活動しています。農家の方の大変さも感じることができ、本当によい体験をさせていただいています。(群馬県中之条町 小学校 経験:4回目)
- ・今年度の猛暑やスズメの被害に苦戦しましたが秋の収穫後、家庭科の調理実習でおいしくお米を味わうことができました。子ども達は「スズメはすごい!」と思ってもよらぬ強敵を知る経験ができました。(福岡県筑後市 小学校 経験:2回目)
- ・昨年初めてバケツ稲栽培にチャレンジし、テキストを見ながら手探りの栽培でしたが、夏の異常な猛暑にも負けず、立派なお米が穫れました。稲わらでお正月飾りを作り、粃穀を利用して紙すきを行い卒園式の案内状を作る予定です。貴重な良い経験が楽しくでき、次の年長組の子ども達にも経験させたいです。(東京都江戸川区 保育園 経験:2回目)

個人の方の声

- ・私自身初めてですが、息子が今年度バケツ稲栽培を学校で脱穀や調理実習までの全てを経験し、楽しかったようなので、家庭でもそのような経験をしてみたいと思いました。(愛知県 女性 経験:2回目)
- ・20年前に一度やったことがあります。まだ実施していることに感動です。その時の稲(わら)は、まだ取ってあります。この取組みは大変良いことだと思います。これからも継続されることを願っています。(千葉県 男性 経験:2回目)
- ・娘が図書館のお米の絵本を見たり幼稚園で稲刈り体験をして、バケツ稲の栽培に大変興味を持っていますので、是非体験させてあげたいと思っています。(東京都 女性 経験:初めて)
- ・初めて稲の栽培をやってみたくて申し込みました。毎日頂いているお米への感謝も含めて育ててみたいです。農家の皆様のご苦労の一端でも感じられたらと思います。(京都府 男性 経験:初めて)
- ・昨年初めて挑戦し、とても面白くて子どもより私が夢中になってしまいました。身近で食のありがたさ、育てる大変さを感じられるなんてとても良いことだと思います。(千葉県 女性 経験:2回目)
- ・都会に住んでいるとなかなか経験する事が出来ない農作業を通して、子供達に食育の大切さを学んでほしいです。自分達で育てたお米を口にするその日を夢見て、愛情たっぷり頑張って育てていきます。(大阪府 女性 経験:初めて)
- ・お米が大好きな息子のために、昨年初めて挑戦しました。台風や地震で心配しましたが、何とかわずかながら収穫できたときの息子の誇らしげな顔が思い出です。今年も頑張るぞと張り切っています。(大阪府 女性 経験:2回目)

